

ボランティア養成セミナー

～一緒に一步ふみだそう！～

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、「ボランティア養成セミナー～一緒に一步ふみだそう！～」を平成28年5月14日（土）～5月15日（日）の1泊2日の日程で実施しました。本事業はボランティアに興味のある県内外の高校生以上を対象とした事業で、高校生12名、大学・専門学校生15名、社会人4名の合計31名。男女の内訳は男性が13名、女性が18名の参加でした。

内容は講義を通して青少年教育の理解や施設の現状を把握し、実習を通して火つけの方法を学んだり、救命救急法の意義や技術を習得したりしました。また、ワークショップではボランティアに対する思いを語り合いました。最終日には実際に活動している赤城法人ボランティアが、昨年度の主催事業の活動の様子や運営側として携わったときの感想などを参加者に発表しました。

< 講義・演習：「ボランティア活動の技術①～あかぎアドベンチャープログラム～」 >

交流の家職員

今回のセミナーの初めの活動は、アイスブレイクも兼ね、交流の家のプログラムの一つである「あかぎアドベンチャープログラム」を行いました。国立赤城青少年交流の家の法人ボランティアは、子どもを対象とした教育事業に参加して活動することが多くなります。そんな活動の中で、協力して活動することや班の状態や全体の様子を把握しながら活動することをアドベンチャープログラムを通して感じてもらいました。



< 講義・実習：「救命救急法と安全管理」 >

講師 大東文化大学 スポーツ・健康科学部 教授 中村 正雄 氏

活動は講義形式でスタートしました。実際の救助活動を行う上で気をつけるべきことを動画やスライドによって確認し、リスクマネジメント、安全対策、救命救急法など救助者自身が安全を確保しながら人命救助するための基本的な知識を学びました。講義後は6～

7人程度の班を編制し、実技講習としてCPR（心肺蘇生法）とAEDの使い方を実際に体験しました。

参加者にとっては講義も実技も新鮮な内容で、真剣に受講していました。人工呼吸でなかなか空気が入らなかったり、胸骨圧迫のポイントや感覚を確かめながら行ったりすることができ、体験を通して感じ、身に着けるということの重要性を感じた実技講習になりました。また、アンケートには「AEDの使い方や命の大切さを改めて考えられた。」という感想もあり、経験者にとっても学びのある内容でした。



< 講義：「青少年教育の理解」 >

講師 独立行政法人国立青少年教育振興機構本部教育事業部 指導主幹 北見靖直 氏
「青少年教育の理解」では、「伝える力」をキーワードに講義が進みました。ボランティアを行うためには、マインド・スキル・センスが大切であり、その中でもマインドをしっかりと持っていなければならないというお話がありました。今後ボランティアを行っていく上での姿勢を考えることができました。また、実際にキャンプ等で子どもと接するときの姿勢などもお話いただきました。不安な気持ちに寄り添うこと、どんな言葉掛けや考え方が必要かなど具体的な内容も聴くことができ、参加者からも「すぐに実践してみたい。」などこれからにつながる感想を聞くことができました。

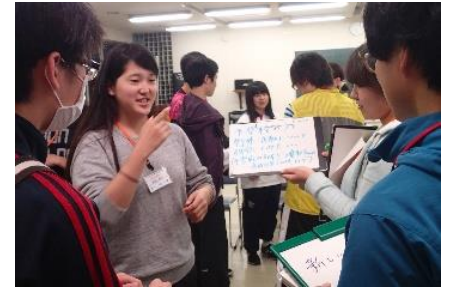
< 講義：「ボランティア活動の意義」 >

講師 赤城法人ボランティア

「ボランティア活動の意義」ではワークショップ形式で話し合いました。赤城で法人ボランティアを長年勤めるスタッフが進行役となり、他のスタッフもボランティアの先輩として輪に入って交流や意見交換に参加しました。

参加者が「ボランティアと聞いてイメージするもの」をフリップに書き、それを元に意見交換を行いました。また、ボランティアに対するイメージや思いを確認し、他者と交流し合うことによって、漠然としていたボランティア像を具体化していきました。

後半はフリートークの時間も設け、打ち解けた雰囲気の中でボランティアについて熱く語る参加者同士の交流もみられました。参加者のアンケートには「ボランティアに対する考えも人それぞれだと感じた。」など視野の広がりが感じられました。



< 講義「青少年教育施設の現状と運営」 >

講師 国立赤城青少年交流の家 所長

この講義では、青少年教育施設という言葉もあまり耳にしたこともない参加者もいる中、施設でどのような現状があり、ボランティアにどのような役割を期待するかなどのお話がありました。参加者の中には「これまで考えたこともなかったことを知ることができた。」「思っていた現状との違いに驚いた。」などの感想が聞かれ、これからボランティア活動をしていく中で知っておく必要があることなどを知る機会となりました。テキストを確認しながら、具体的な活動をする時の注意点や心構えなどの講義もあり、いよいよ実際に今後活動して行くという意識の高まりがあったように思います。



< 講義・演習「ボランティア活動の技術②～火おこし～」 >

赤城法人ボランティア

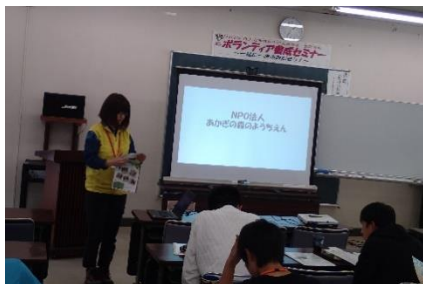
今回のセミナーのボランティア活動の技術の二つ目として、キャンプや研修支援で実際に行うことが多い、火を扱う体験をしました。準備から後始末の仕方まで説明を受け、火のおこし方、管理の仕方など原理や理論も学びながらの活動となりました。最後には、マシュマロ焼きや焼きビー玉など火を楽しむことについても体験できる活動になりました。



<説明「ボランティアの活動の実際」>

国立赤城青少年交流の家職員
赤城法人ボランティア

交流の家の事業に参加した先輩ボランティアが主催事業についての紹介をしました。実際に活動をしている赤城法人ボランティアが、昨年度までの活動の様子や運営側として携わったときの感想などを参加者に発表しました。発表者の思いの詰まった内容でした。参加者からは「興味のある活動があり、早く活動したくなった。」などの感想があり、活動の魅力が伝わったようです。



【事業を終えて】

今回の事業は、「一緒に一歩ふみだそう！」ということをテーマに、一緒にという仲間意識の高まるセミナーになることを願い、赤城法人ボランティアが中心となり企画から運営まで行いました。セミナーの中で参加者とボランティアスタッフとの距離が縮まり、ボランティア活動への意欲の高まりが感じられるセミナーになりました。

高校生が多いセミナーになったので、参加者の感想などを見ると救命救急法や講義など初めて体験したり、学んだりすることが多く参加者にとっては新鮮な活動になったように思います。また、新鮮な分どの活動にも興味をもって真剣に取り組む様子がありました。

最後には、お互い連絡先を交換するなど今後の情報交換につながる様子も見られました。ボランティア養成セミナーは今後の活動にいかにつながっていくかということが重要になると考えます。これからあかぎ法人ボランティアの仲間として一緒に活動して行けるよう活動の機会を提案していきたいと思います。

担当 企画指導専門職 田野崎 和人